



学内 気になる造形美

K-NOBの初めての@キャンパスの記事です。当時は新聞記事が書ける、というところでかなり張り切っていた覚えがあります。ところがいざ始めると資料集めに苦労して、一度決まったテーマを変えてしまつてもありません。ある意味最も苦労した記事かもしれません。

学内には3号館のほかにもラザサスの一部となっている自動車庫や標本庫もモダニズム建築として登録有形文化財になっています。また大学構内は風水に影響されており、北東の鬼門方角から南西まで一本のまっすぐの通り道になるよう建物が設計されています。



モダニズム風デザイン

3号館

- 建築 堀内重吉
- 設計 堀内重吉
- 用途 工学部研究科棟
- 竣工 1930年
- 登録 登録有形文化財
- 特徴 全面タイル張り
- 登録ドラマ 斜陽館の女、影の機、光る壁面、冤罪死前など

「いかにも大学」ロケ地に
 京都市左京区の吉田町現地・松ヶ崎への移転時にさかのぼる。当時、教授を務め、西陣織物館・京都市考古資料館を設計した木野清吉が基本設計に基づいて建築された。

外観は、全面クラックタイル張り。重厚な印象。上から見ると「ヨ」の字形をした建物。タイル工場のデザインを参考にした。日本モダニズム建築の先駆者である本野しげ建築事務所が設計した。1930年竣工。内部をみると、玄関や中央階段が目目を引く。中央階段について工学部第3年池本卓人さん(21)は「いかにも大学らしくて好きな場所」と話す。その美しい形状から、テッサンのモデルになることも多い。建築内には研究科長室や研究室、実験室など、大に欠かせない設備も揃っている。

「いかにも大学」ロケ地に

京都工芸繊維大では独特の雰囲気を持つ二つの建物が、学生の気になる存在になっている。昭和初期建築の「3号館」はモダニズム風のデザインで、京都を舞台にしたテレビドラマの撮影に利用されてきた。一方、4年前に建てられた「K-1 HOUSE」(ケー・アイ・ティール・ハウス)はガラス張り。それぞれの魅力を探った。

現在と過去の共生

HIT HOUSE

あふれる開放感

- 2010年
- デザイン 堀内重吉
- 用途 重慶、学生自治会
- 特徴 ガラス張り空間
- 要り出した2階階層
- 玄関出入口ロ



このデザインは学生に好評で、建物内の食堂をより利用する。工学部第3年光木健太さん(21)は「開放感があり、夜は中の明かりで昼とは違った雰囲気がある」と説明する。他にも外に張り出した階段と、この特徴的なデザインが取り入れられ、空間のアクセントになっている。壁面にはガラス以外にも、伝統的なキヤバスの建築に取り入れられてきた人も用いられている。さらに1階の出入口は北東と南西に設けられており、いわゆる鬼門の位置になっていて通り抜けができる形となっている。

現在と過去の共生という、歴史の蓄積を身近に感じられるのはまれなところである。これも新しいものを取り入れながらも伝統をそそぐかという、両者を調和させるという努力のたまものであるとは間違いない。

京都工芸繊維大学
 広報チーム
 K-NOSBY

今週の記者
 工学部研究科修士課程 2年 栗根 理恵(24)
 工学部 3年 魚谷 祐太郎(20)
 1年 陣内 竜一(21)
 下村 祐輝(19)

うちのプロジェクト
 京都工芸繊維大の魅力を生徒自らが発掘・発信することで、京都や日本、世界での知名度向上やブランド価値を高めることを目指し、2013年7月に結成しました。大学公式のフェイスブックやツイッター、LINE(無料通信アプリ)で大学の様子や季節感のある周辺情報を発信。高校生に向けた大学紹介の制作や他大学の広報団体との交流などもしています。